

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

岩男忠幸さんの著書『日本のごわざを心に刻む』で、先人たちが生きて行く上で、さまざまな場面でヒントや指針となる教えや知

恵を「諺」という形で残し、人との付き合い方、言葉の使い方、お金に対する考え方など現代に置き換えても通用すると多くの諺を紹介した。多くは普段の生活から学んだ知恵や教訓などが口伝えで広まったもので、テニスがよ、かついメーシしやすい短い言葉で強く戒めたり、ユーモアを交えながら教え諭したりして、ものすごい説得力があり機会あるごとに読む本でもある。

廊下。空が、照ろろか、曇ろろか、降ろろか、と迷っているかのように、天候のはっきりしないことを三つの「ろろか」を「廊下」に掛けたしゃれの諺だが、まさに今の天候を言うのだと「諺」の表現

## 日々の暮らしの中の出来事に関心を持つ

幕内優勝を飾った。だが続く長野県出身力士は、全員幕下以下で難しそうだ。大相撲が始まると知人の息子の序二段の軽井沢出身の琴大友と松本市浅間出身の琴孝玉の成績が気になり信濃毎日新聞紙面

年・2年生でチーム編成した新人戦がスタートした。中信高等学校新人体育大会・ソフトボール競技は、男子チームは無く、女子チームも豊科高校と松本美須々ヶ丘高校の2チームのみと寂しい限りだ。開会式冒頭、豊科高校ソフトボール監督であった池田昭弘教諭への黙とう。池田さんは、長野県ソフトボール協会の高野連委員・中信支部理事を歴任、中信地区の多くの学校のソフトボールの監督を長く勤められた方だ。この3月に定年を迎え、引き続き再任用教諭として活躍を期



豊科高校が優勝。10月26日～28日大町市での県大会の活躍を期待したい。

トボールを未来につなげようと、普及と強化に力を注ぎ、フェアプレイと暴力・暴言の根絶に向けた取り組みを積極的に取り組んでいた。ご冥福を祈るばかりだ。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

待されたが、突然の死を迎えてしまった。生